

4. 用途別の実態

(1) 市民会館

1) 施設概要

① 施設一覧

本市では、市民の文化教養及び福祉を増進する目的をもって、市民会館を設置しています。運営方式は市直営となっています。

表 施設一覧

名称	所在地	延床面積 (㎡)	建築年度 (年度)	構造 (主たる建物)	備考
1 市民会館	総社一丁目2番5号	4,621.30	昭和42	RC造	

② 事業内容

・施設の維持管理・貸出業務及び自主事業の開催

③ 開館時間等（平成26年度）

開館時間	休館日	開館日数
午前9時から午後10時まで	毎週月曜日、年末年始	311日

④ 利用方法

使用許可申請は利用日の6か月前から受付します。申請者が直接来館して申し込みが必要です。なお、利用にあたっては事前登録が必要です。

⑤ 配置状況

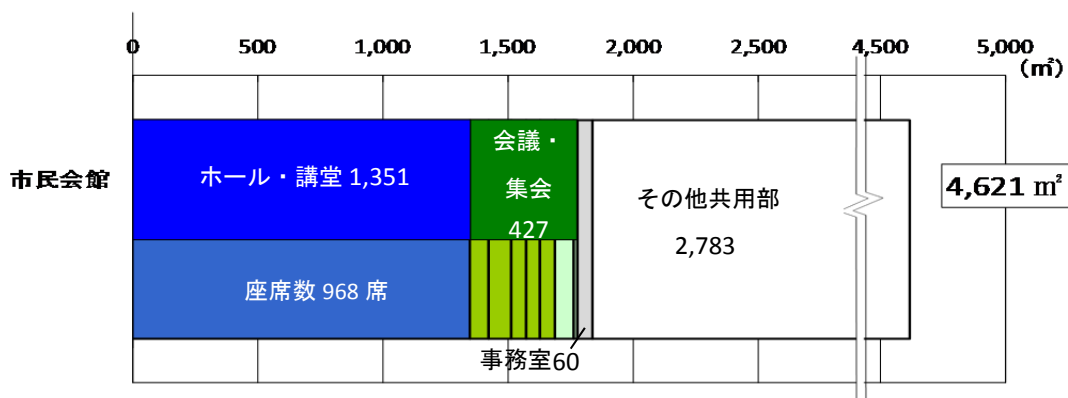
図 市民会館位置図



⑥ スペース構成

市民会館の床面積は4,621 m²となっており、座席数968席のホールが中心となっています。

図 スペース構成（平成26年度）



2) 実態把握

① 建物状況

■ 市民会館の建物総合評価結果

平成 26 年度の市民会館の建物状況について評価を行いました。

No.	施設名	基本情報		①耐震化	②老朽化			③劣化状況	④バリアフリー対応					⑤環境対応			⑥維持管理 床面積当たり (円/㎡)		
		建築年度	延床面積 (㎡)	耐震診断・耐震改修	築年数	直近の大規模改修	大規模改修または直近の築年数	劣化診断票回答評価	エレベーター※1	車いす用トイレ	障がい者用トイレ	車いす用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロッック	太陽光発電の導入	自然エネルギー	環境対応設備※2	光熱水費
1	市民会館	昭和42	4,621	未実施	48	-	48	×	×	△	△	△	△	×	×	×	1,524	2,782	51
記載例	③	○:劣化がみられないもの △:一部に劣化がみられるもの・不明 ×:屋根・外壁等の重要部位に劣化がみられるもの			④	○:実施済 △:一部実施・不明 ×:未実施			※1 手すり・鏡・低い操作ボタン等 ※2 節水型便器, 高効率照明器具・LED照明, 雨水・中水設備 ※①の「不要」には, 耐震診断の結果耐震補強が不要な施設と, 新耐震基準施設のため不要な施設が含まれる。										

劣化状況については評価が低く、早期の対策が必要です。

市民会館は昭和 42 年建築の旧耐震基準（昭和 56 年以前）の建物で耐震対策が完了していません。老朽化対策も含めた早急な対応が必要です。

バリアフリー化は一部行われております。

パターン I 耐震性 老朽化

・耐震安全性が確保されていない
・さらに、老朽化が進行している
⇒耐震安全性の確保とともに、老朽化対策も必要な施設

該当施設 建築年度
市民会館 昭和42

< 1 施設 >

コメント
・旧耐震基準の建物で、特に築年も古く、早急な耐震化と老朽化対策が必要です。

② 利用状況

■ 年間利用件数・利用者数

市民会館の利用件数は年間 1,389 件、利用者数は 54,228 人です。

利用件数の利用者別の内訳をみると、一般団体等が最も多く、99%を占めています。利用者数では一般団体等の 76%に続き、官庁利用も多くなっています。利用件数の部屋別内訳では、会議・講座室が約 72%を占めており、次いで和室が約 23%を占めています。市外からの利用状況を見ると、利用者数で約 3 割弱が市外からの利用となっています。

目的別の内訳では、集会・会議・講習会等が最も多く、次いで映画・演劇・演奏会等が多くなっています。

図 年間利用件数・年間利用者数（平成 26 年度）

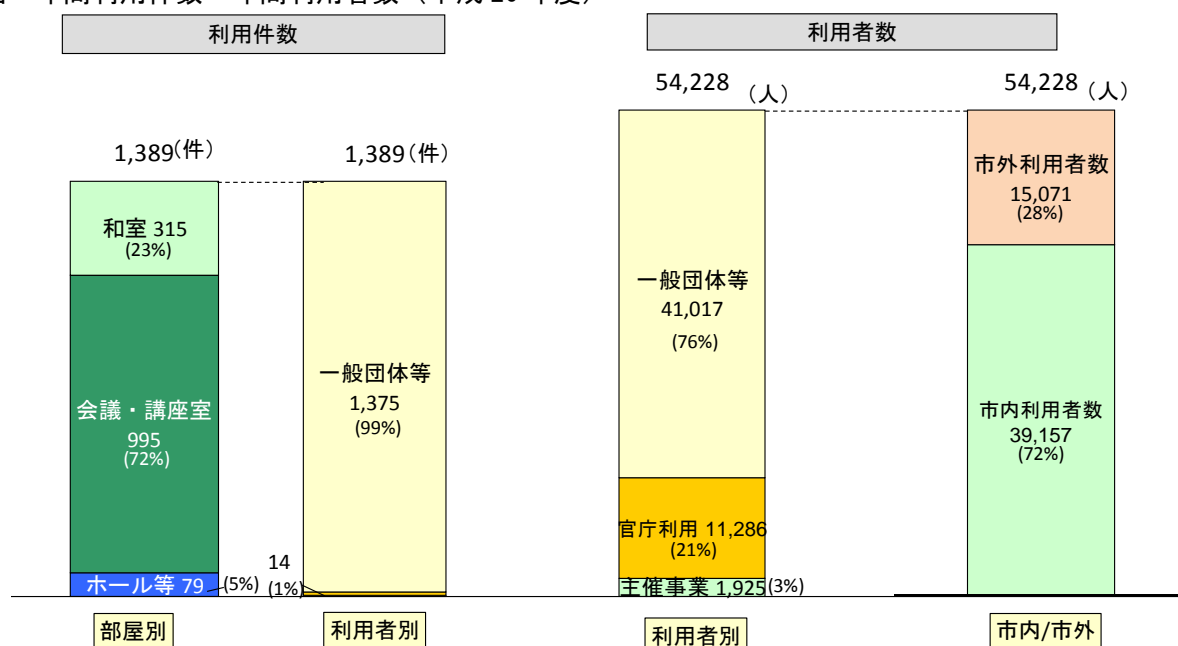
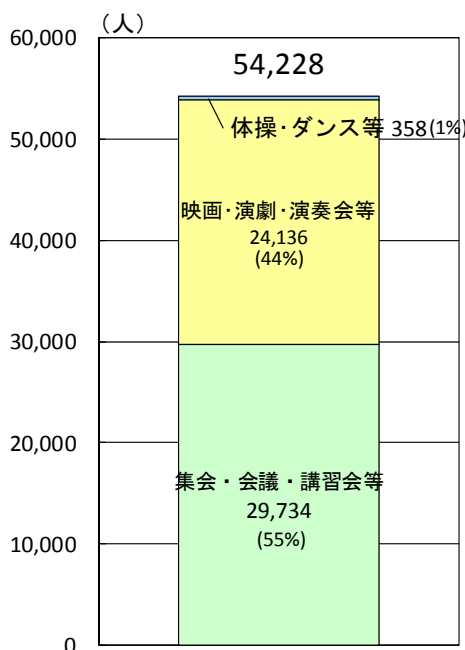


図 目的別利用者数（平成 26 年度）



■ 部屋別の利用状況

部屋別の利用件数をみると、会議・集会在全体の71.6%を占め、最大となっています。稼働率は全体で29%にとどまっています。

また、利用者数は全体で54,228人で、利用1件当たりの利用者数にすると39.0人/件と多くなっており、ホールの利用が反映された結果が見てとれます。

部屋別の稼働率をみると、最大がホールの38%、次いで会議・集会の30%、和室は22%にとどまっています。

図 部屋別利用件数及び稼働率（平成26年度）

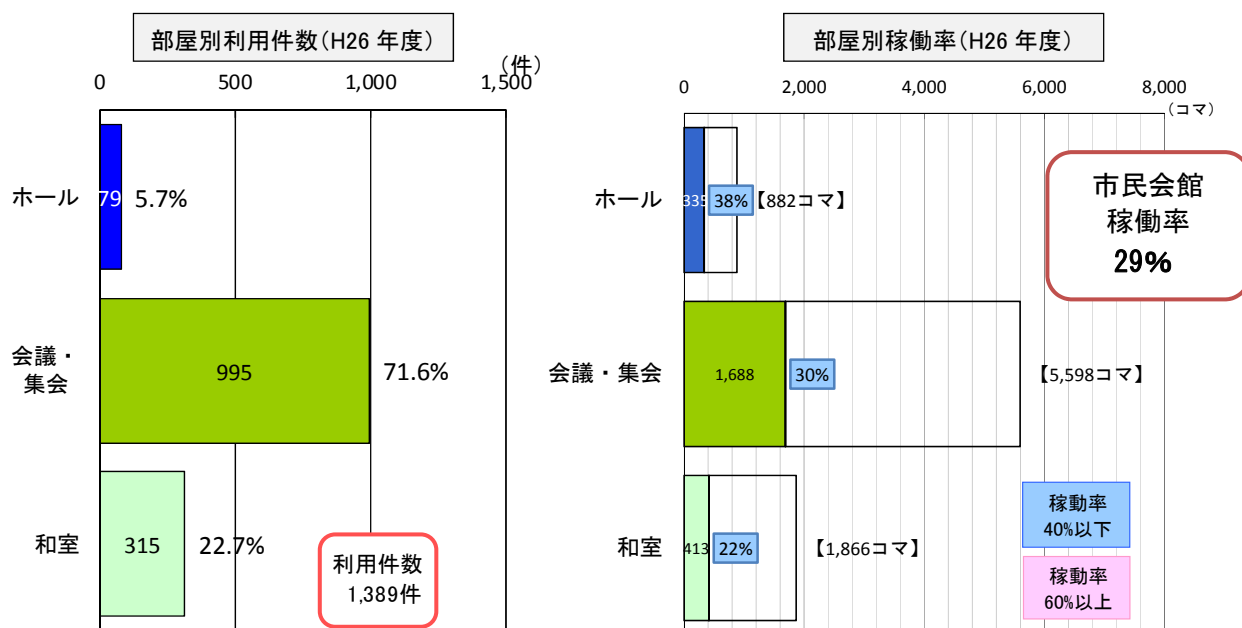
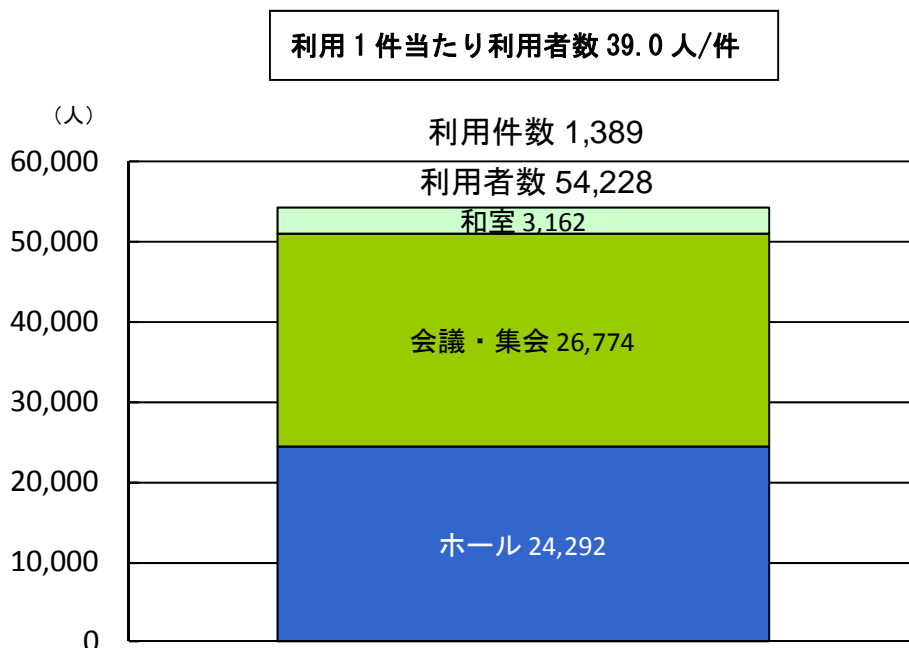


図 部屋別利用者数（平成26年度）

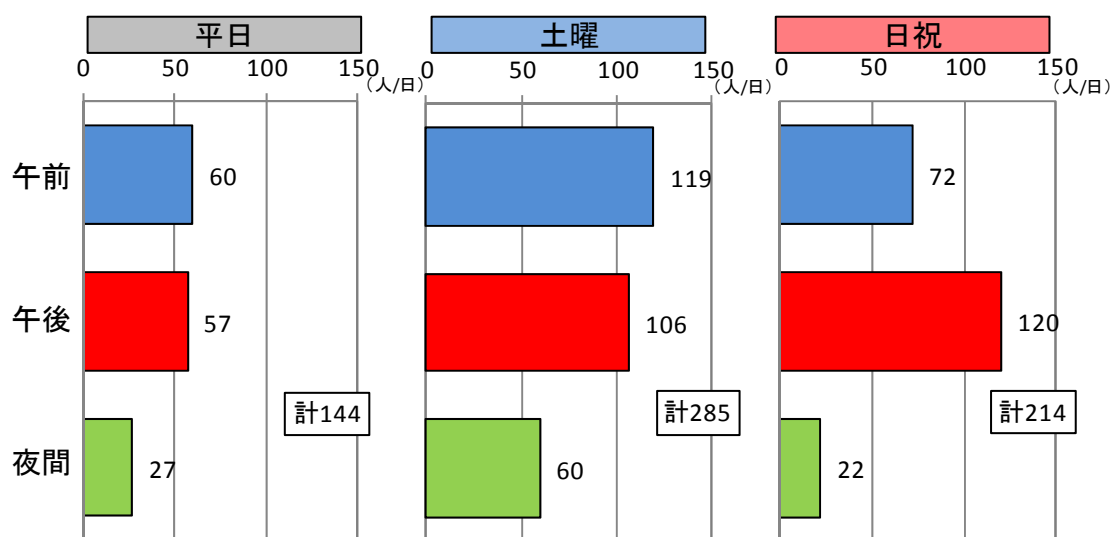


■ 曜日・時間帯別利用状況

時間帯別の利用状況を見ると、午前・午後の利用が多く、夜間の利用は少ない傾向となっています。

また1日当たりの利用者数は、土曜・日曜の利用が多く、平日は少なくなっています。

図 曜日・時間帯別利用状況



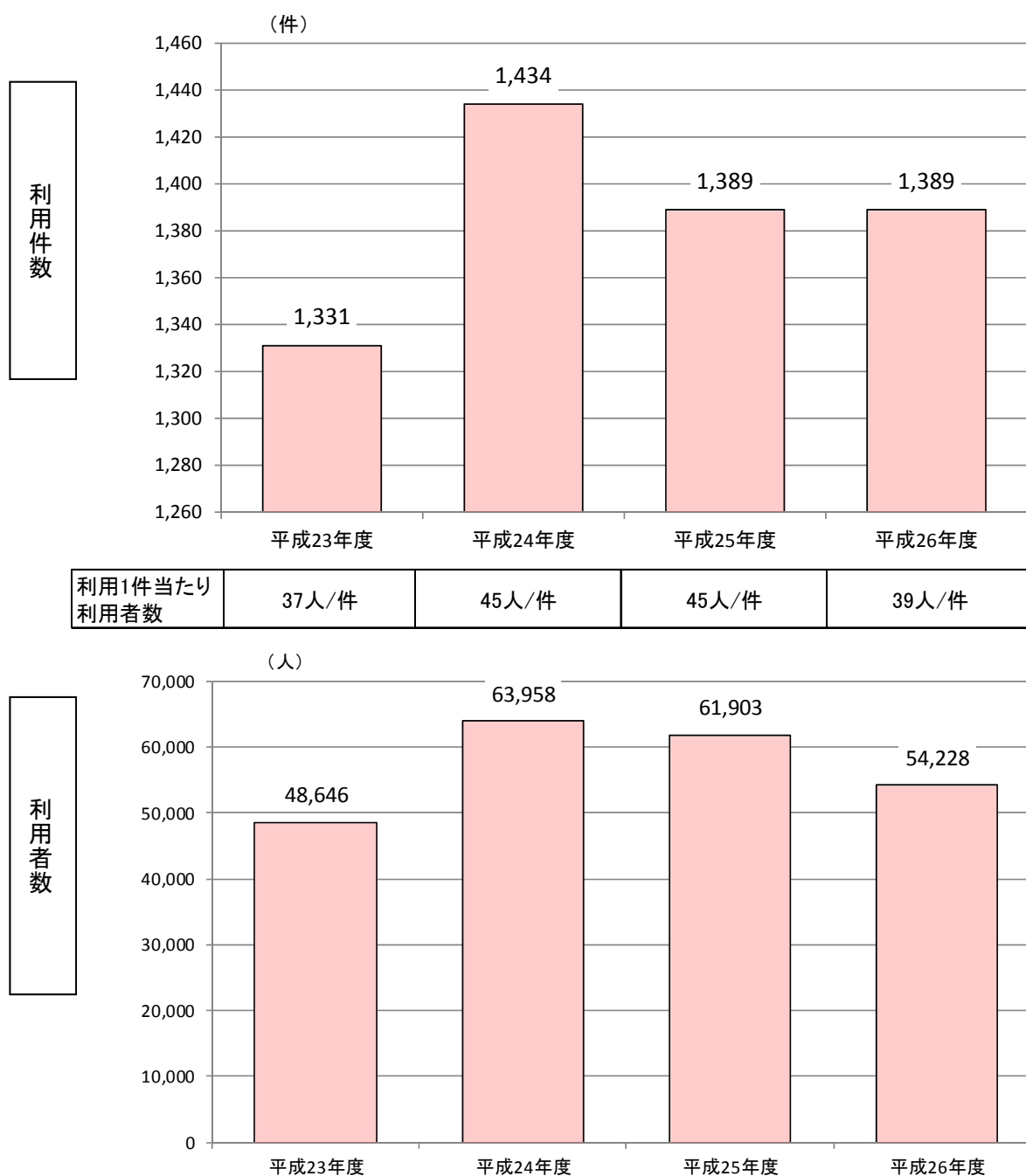
■ 利用推移

直近4年間の利用件数の推移をみると、平成23年度から24年度にかけて、1,331件から1,434件と増加し、平成25年度及び平成26年度は1,389件と減少しています。

利用者数の推移も、利用件数に比例して平成24年度が6万3,958人と前年度より増加していますが、その後減少傾向にあります。

利用1件当たりの利用者数は37人から一時45人/件へと増加し、その後39人/件へと減少しています。

図 年間利用件数・利用者数の推移



③ 運営状況

■ 運営人員

市民会館は直営で運営されています。運営人員をみると、一般職員が2人、臨時職員が1人、その他職員（委託）4人となっています。

表 運営人員（平成26年度） (人)

		市民会館
管理運営形態		直営
施設維持管理	一般職員	1.0
	計	1.0
事務・庶務・ 受付・案内	一般職員	1.0
	臨時職員	1.0
	その他職員(委託)	4.0
	計	6.0
合計	一般職員	2.0
	臨時職員	1.0
	その他職員(委託)	4.0
	合計	7.0

■ 運営体制

平日は一般職員2人、委託職員1人の体制になっています。6～11月は臨時職員1人が増員されています。土曜日・日曜日は一般職員1人、委託職員2人の体制です。祝日は委託職員2人での運営となっております。また夜間の貸出業務がある場合は委託職員2人体制で運営しています。

なお、委託はシルバー人材センターによりローテーションを組んでいます。

図 運営体制（平成26年度）

		8:30	9:00	16:00	17:15	22:00
市民会館	平日(火～金) 運営体制 3～4人	一般職員 2人			委託職員 1人	委託職員 2名 貸出業務がある場合
		臨時職員 1人(6～11月)				
	土・日曜日・祝日 運営体制 2～3人	一般職員 1人(土日のみ・交代勤務)			委託職員 2人 貸出業務がある場合	

④ コスト状況

■ コスト状況（対象 1 施設）

市民会館の年間トータルコストは 6,431 万円です。

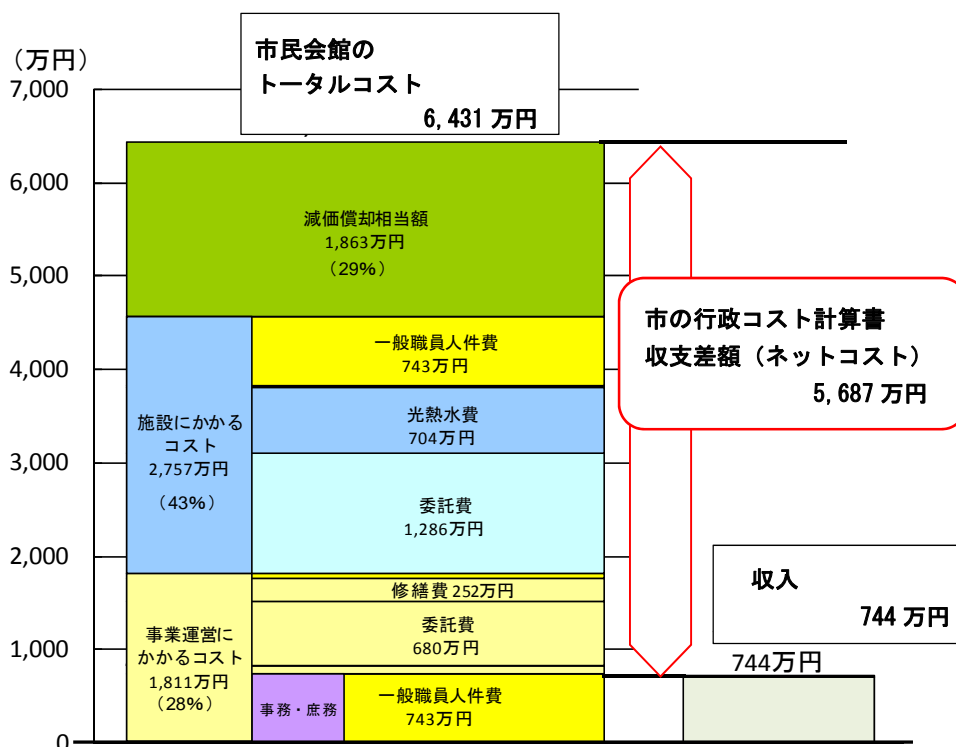
年間トータルコストのうち、施設にかかるコストが 2,757 万円（約 43%）、事業運営にかかるコストが 1,811 万円（約 28%）、減価償却相当額が 1,863 万円となっています。

表 市民会館行政コスト計算書（平成 26 年度）

（千円）

I. 現金収支を伴うもの【コストの部】		市民会館
施設にかかるコスト	一般職員人件費	7,434
	修繕費	235
	光熱水費	7,041
	委託費	12,855
	施設にかかるコスト	27,565
事業運営にかかるコスト	臨時職員人件費	463
	修繕費	2,515
	委託費	6,798
	使用料及び賃借料	15
	車両・備品購入費	43
	負担金補助及び交付金	43
	その他物件費	802
	事業運営	10,679
	一般職員人件費	7,434
	事務・庶務	7,434
	事業運営にかかるコスト	18,113
現金収支を伴うコスト 計		45,678
【収入の部】		
収入	使用料収入	7,214
	諸収入	226
収入の合計		7,440
II. 現金収支を伴わないもの		
コスト	減価償却相当額	18,628
III. 総括		
コストの部合計(トータルコスト)		64,306
収支差額(ネットコスト)		56,866

図 市民会館トータルコスト（平成 26 年度）

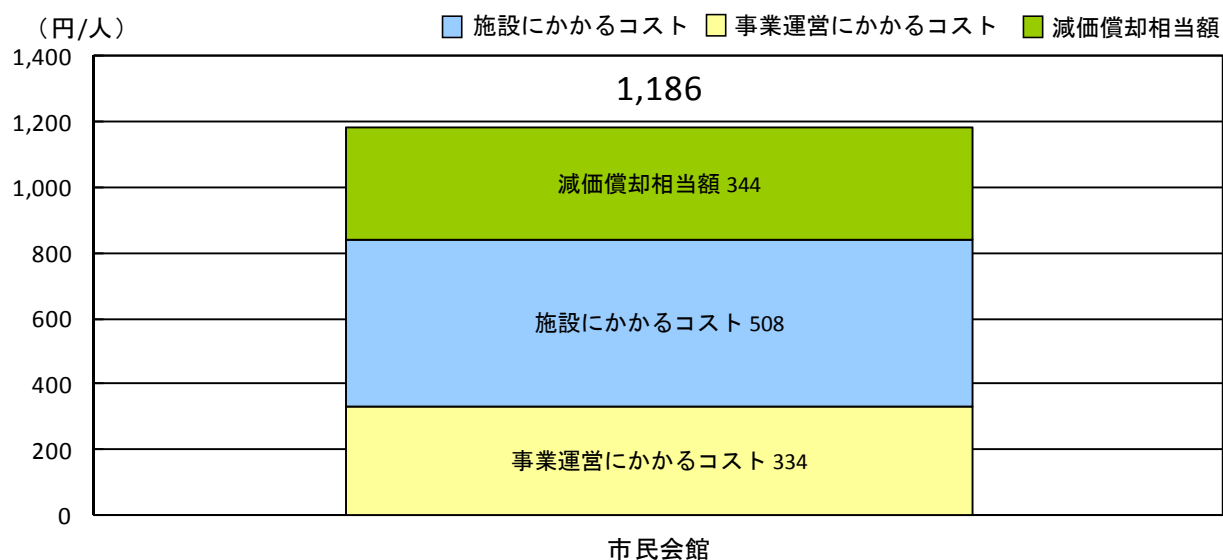


3) 評価・分析

■ 利用者 1 人あたりにかかるコスト

年間利用者数とトータルコストから利用者 1 人あたりにかかるコストを算出すると、1,186 円/人となっています。

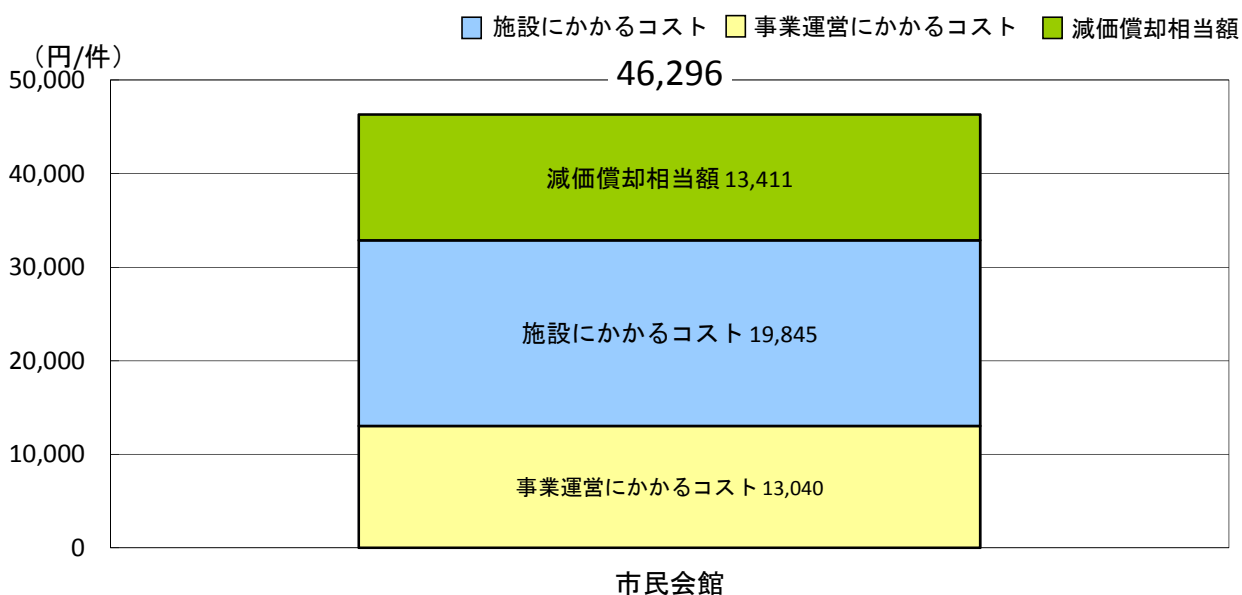
図 利用者 1 人あたりにかかるコスト (平成 26 年度)



■ 利用 1 件あたりにかかるコスト

年間利用件数とトータルコストから利用 1 件あたりにかかるコストを算出すると、46,296 円/件となっています。

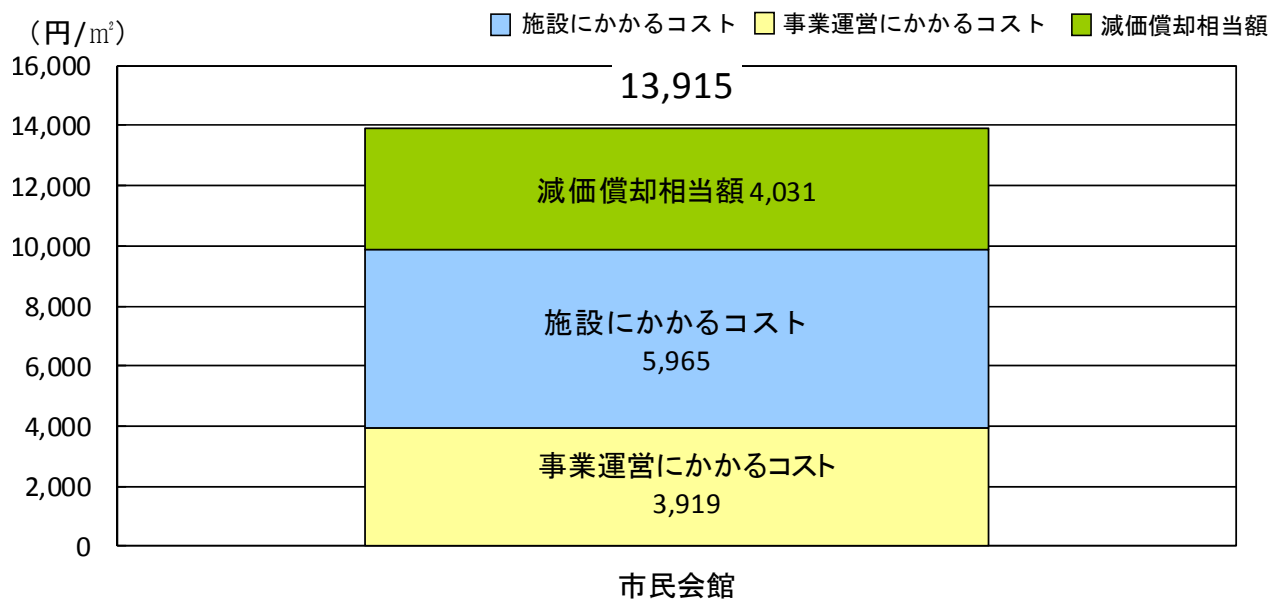
図 利用 1 件あたりにかかるコスト (平成 26 年度)



■ 床面積 1 m²あたりにかかるコスト

床面積とトータルコストから床面積 1 m²あたりにかかるコストを算出すると、13,915 円/m²となっています。

図 床面積 1 m²あたりにかかるコスト（平成 26 年度）



4) 今後の検討の視点

■ 施設に関する視点

- 市民会館は耐震対策がまだ済んでいないため、早急な対応が必要です。
- 市民会館は築 48 年と、老朽化の進行が懸念されます。劣化問診票調査でも重要部位の劣化報告があり、老朽化対策が求められます。

■ 利用に関する視点

- 市民会館の稼働率は 30%に満たず、十分に利用されているとはいえない状況といえます。
- 市民会館は規模が大きい分利用者も多く、大きなホールの利用が中心のため、1 件当たりの利用者数や週末利用が多くなっています。しかし平日の利用状況などからも、その規模の割に利用が多いとは言えない状況と考えられます。
- 利用状況の年度推移では、ここ 3 年は減少傾向にあり、ニーズとの適合性の検証が求められるものと考えられます。

■ コストに関する視点

- 市民会館は、施設にかかるコストと減価償却相当額を加えると、トータルコストの 70%を超えており、老朽化と合せて現行建物を今後どうしていくか検討が必要です。